

# ニューブロンズMG

## 製品の概要

### ◆ 主成分(抗原)

NDウイルス Kimber株 感染尿膜腔液  
(不活化前ウイルス量)  $10^{11.1}$  EID<sub>50</sub>以上

IBウイルス M-41株 感染尿膜腔液  
(不活化前ウイルス量)  $10^{9.6}$  EID<sub>50</sub>以上

IBウイルス H-52株 感染尿膜腔液  
(不活化前ウイルス量)  $10^{9.6}$  EID<sub>50</sub>以上

MG R-980株 リン酸緩衝食塩浮遊液  
(不活化後抗原量)  $10^{6.0}$  MG CFU以上



## 製品の概要

### ◆ 主成分(アジュバント他)

油 剤	ライト・ミネラルオイル	305 ml
乳化剤	ソルビタン・セスキオレート	30 ml
	ポリソルベート80	3 ml
不活化剤	ホルマリン	1 ml



## 製品の概要

- 効能または効果

ニューカッスル病、鶏伝染性気管支炎の予防およびマイコプラズマ・ガリセプティカム感染症による産卵率低下の軽減に使用します。

- 用法および用量

5週齢以上の鶏（採卵鶏および種鶏）に、1羽あたり0.5mlを頸背部（中央あるいはそれより下部）の皮下に注射します。



## 製品の概要

### 使用上の注意

- 1) **出荷制限** : ワクチン接種後、196日(28週間)以内は処理場へ出荷しないでください。
- 2) 肉用鶏には使用しないでください。
- 3) 注射部位が不適當な場合、注射部位の腫脹・硬結、顔面腫脹、一過性の食欲減退および脱水等が認められることがありますので、注射部位を厳守してください。



## 製品の概要

### ワクチンの特長

- 1) Mgには、免疫効果が高いR-980株を使用しています。
- 2) 省力型の油性アジュバント混合ワクチンです。長期間抗体が持続し、ワクチン接種回数の減少・ワクチンプログラムの簡素化が可能です。
- 3) 鶏伝染性気管支炎には、抗体応答のよいM-41株および抗原域の広いH-52株の2株を使用しています。
- 4) ニューカッスル病には、抗体応答に優れたKimber株を使用しています。
- 5) 鶏に対するストレスが少なく、安全性の高いワクチンです。



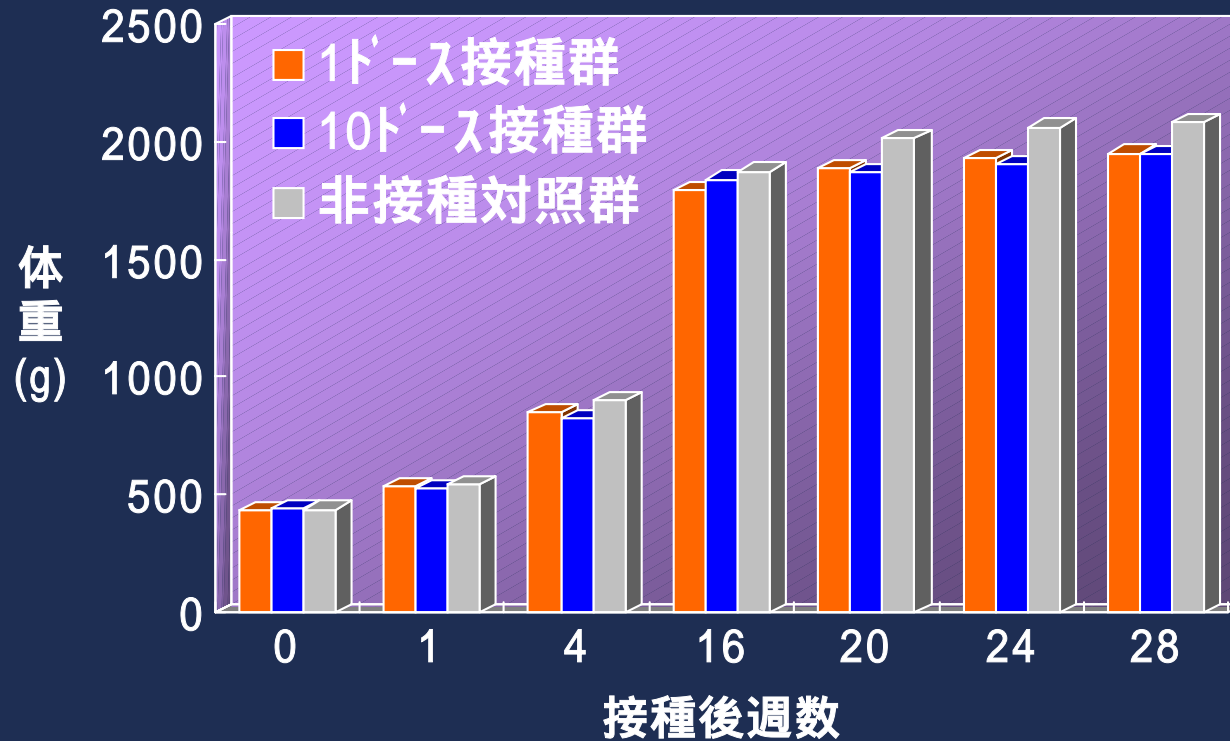
# ニューブロンズMG

## 1. 安全性試験

- A) 増体重への影響
- B) 注射局所の変化

## 安全性試験

## 増体重への影響

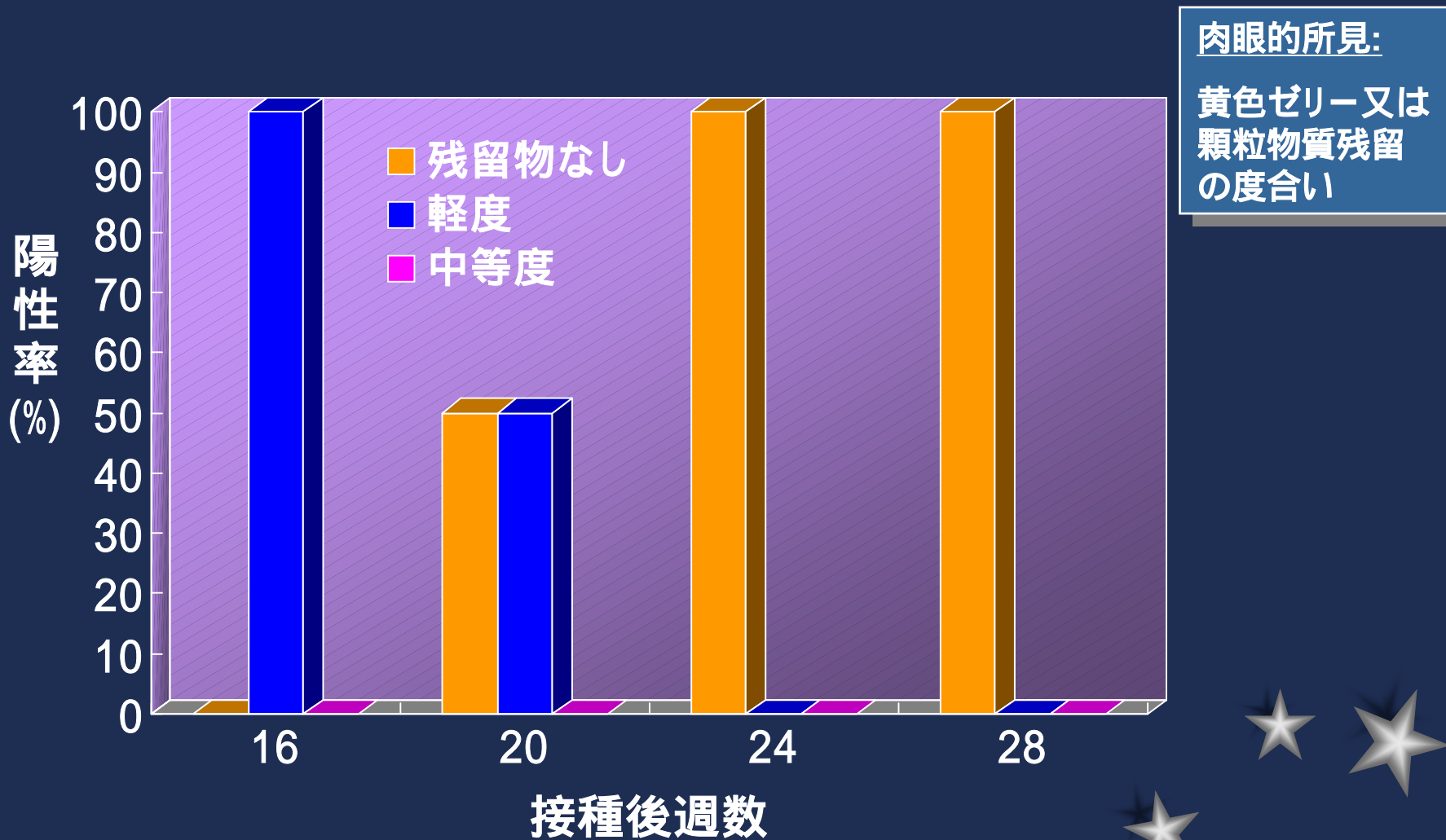


# 安全性試験

## —注射局所の変化—

NBMg混合不活化ワクチン

オイルアジュバントの消長(肉眼的所見)



# 安全性試験

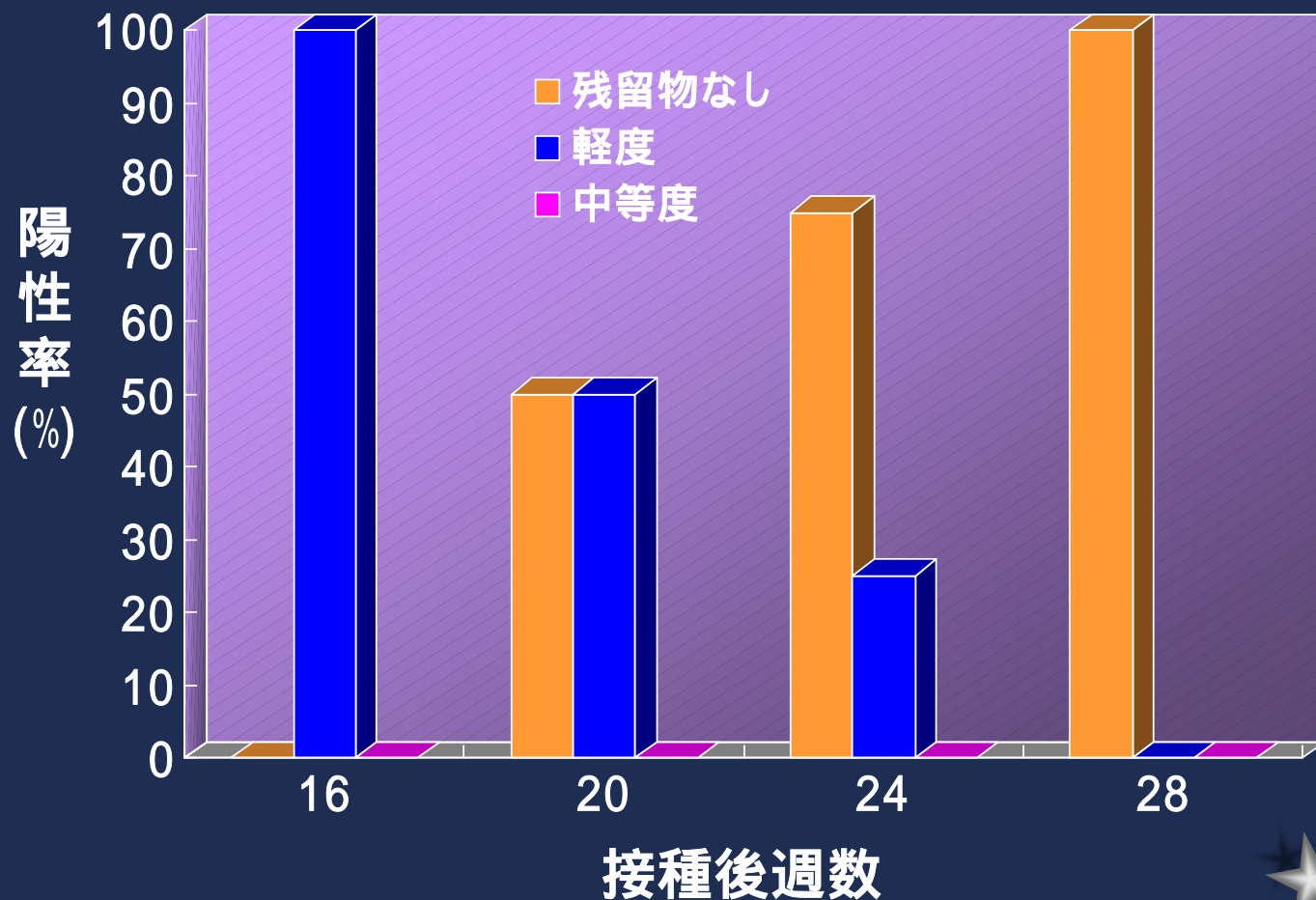
## —注射局所の変化—

NBMg混合不活化ワクチン

オイルアジュバントの消長(組織学的所見)

組織学的所見:

オイルシスト  
及び単核細胞  
の浸潤の度合  
い



# ニューブロンズMG

## 2. 有効性試験

- A) 免疫の成立時期
- B) 免疫の持続

## NDに対する免疫の成立時期と持続

接種後の期間	免疫成立時期				免疫の持続	
	1週	2週	3週	4週	1月	6月
(ワクチン群)						
攻撃耐過率	50	100	100	100	100	100
(対照群)						
攻撃耐過率	0	0	0	0	0	0

ワクチン群の攻撃羽数：各区とも 10 羽

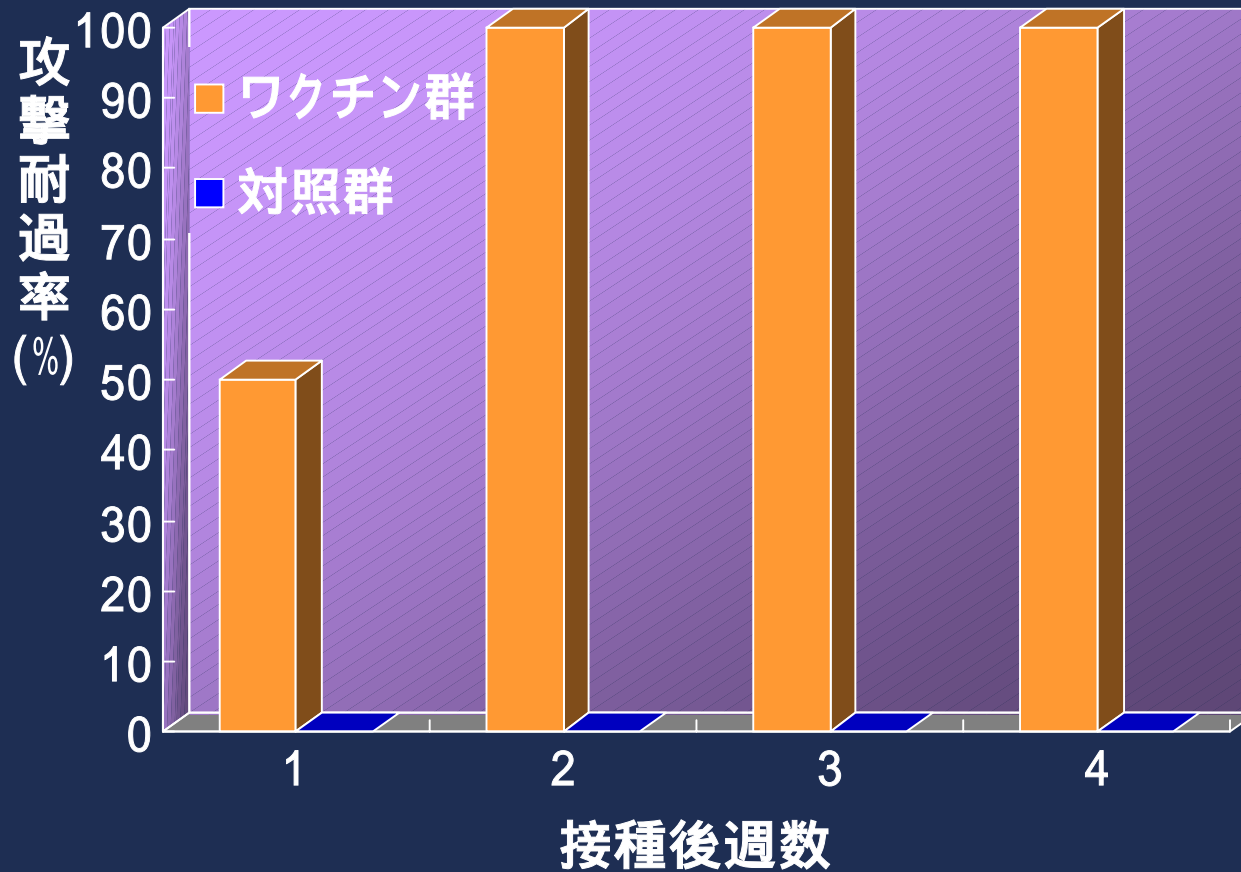
対照群の攻撃羽数：各区とも 3 羽



# 有効性試験

NBMg混合不活化ワクチン

## NDに対する免疫の成立時期



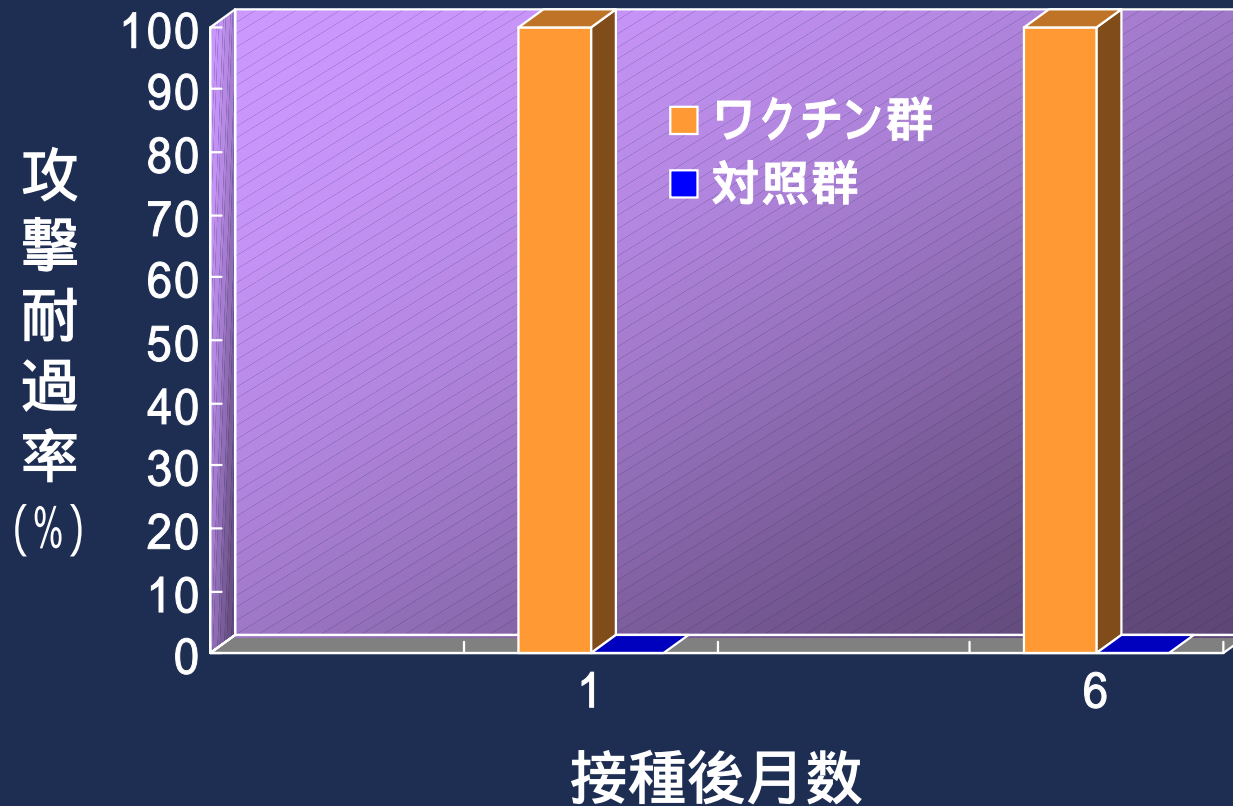
NDV攻撃試験：  
ワクチン接種後  
に攻撃試験した  
結果の耐過率を  
示す



# 有効性試験

NBMg混合不活化ワクチン

## NDに対する免疫の持続



NDV攻撃試験：  
ワクチン接種後  
に攻撃試験した  
結果の耐過率を  
示す



## 有効性試験

## IB (M-41株) に対する免疫成立時期と持続

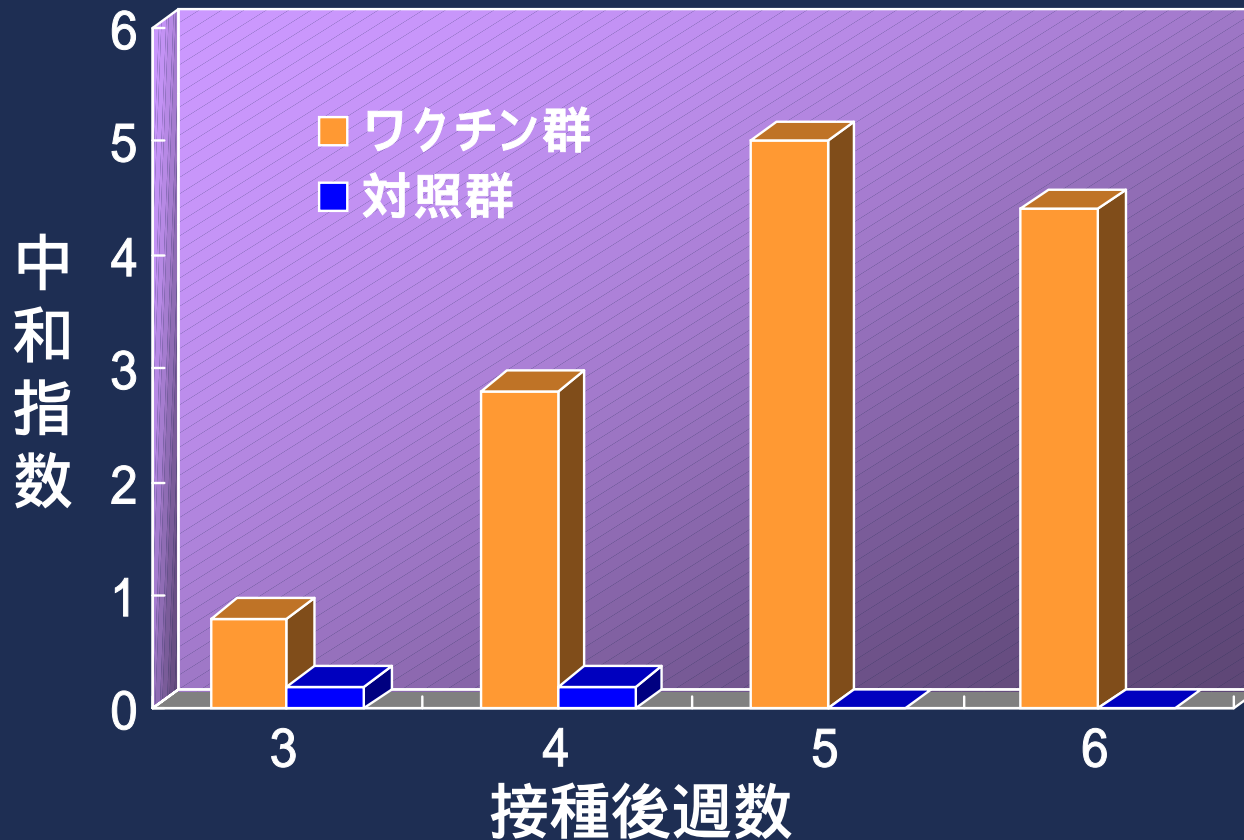
接種後の期間	免疫成立時期				免疫の持続	
	3週	4週	5週	6週	1月	6月
<b>(ワクチン群)</b>						
中和指数	0.8	2.8	5.0	4.4	2.8	3.6
<b>(対照群)</b>						
中和指数	0.2	0.2	0	0	0.2	0.8

- 1) 数値は、ウイルス希釈法による中和指数
- 2) ワクチン群の中和指数は、各区とも10羽のプール血清測定値
- 3) 対照群の中和指数は、各区とも3羽のプール血清測定値



# 有効性試験

## IB (M-41株) に対する免疫の成立時期



IB 中和試験：  
ワクチン接種  
後の力価試験  
(ウイルス希  
釈法による)

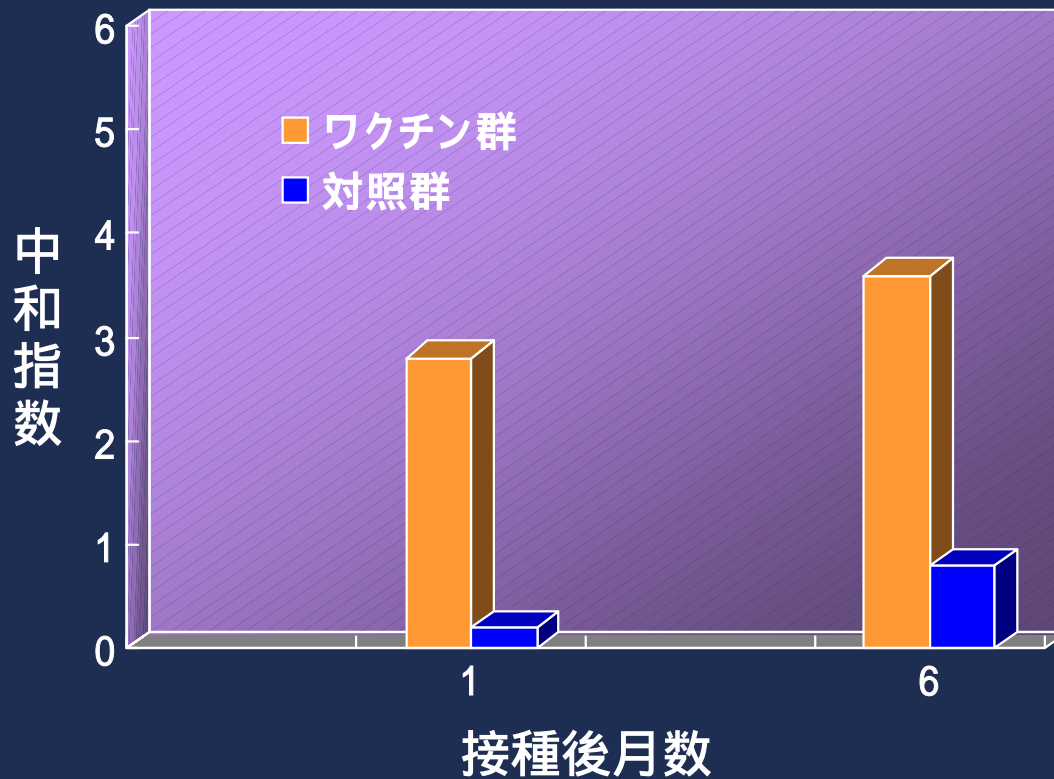
陽性限界=2



# 有効性試験

NBMg混合不活化ワクチン

## IB (M-4 1株) に対する免疫の持続



IB 中和試験：  
ワクチン接種  
後の力価試験  
(ウイルス希  
釈法による)

陽性限界=2



# 有効性試験

NBMg混合不活化ワクチン

## IB (H-5 2株) に対する免疫の成立時期と持続

接種後の期間	免疫成立時期				免疫の持続	
	3週	4週	5週	6週	1月	6月
(ワクチン群)						
中和指数	0.8	2.8	2.6	2.4	2.6	2.6
(対照群)						
中和指数	0.6	0.4	0.4	0.4	0.6	0.2

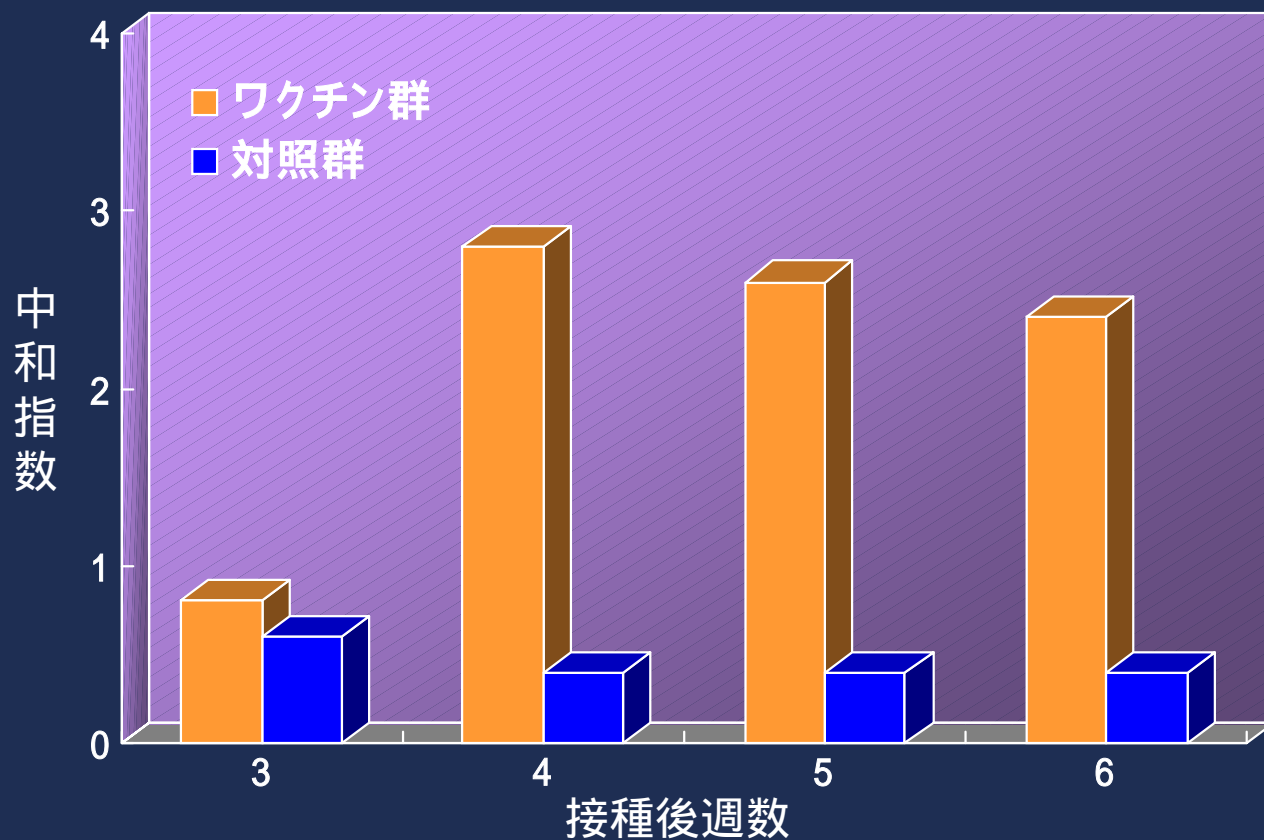
- 1) 数値は、ウイルス希釈法による中和指数
- 2) ワクチン群の中和指数は、各区とも10羽のプール血清測定値
- 3) 対照群の中和指数は、各区とも3羽のプール血清測定値



# 有効性試験

NBMg混合不活化ワクチン

## IB (H-5 2株) に対する免疫の成立時期



IB 中和試験：  
ワクチン接種  
後の力価試  
験(ウイルス  
希釈法による)

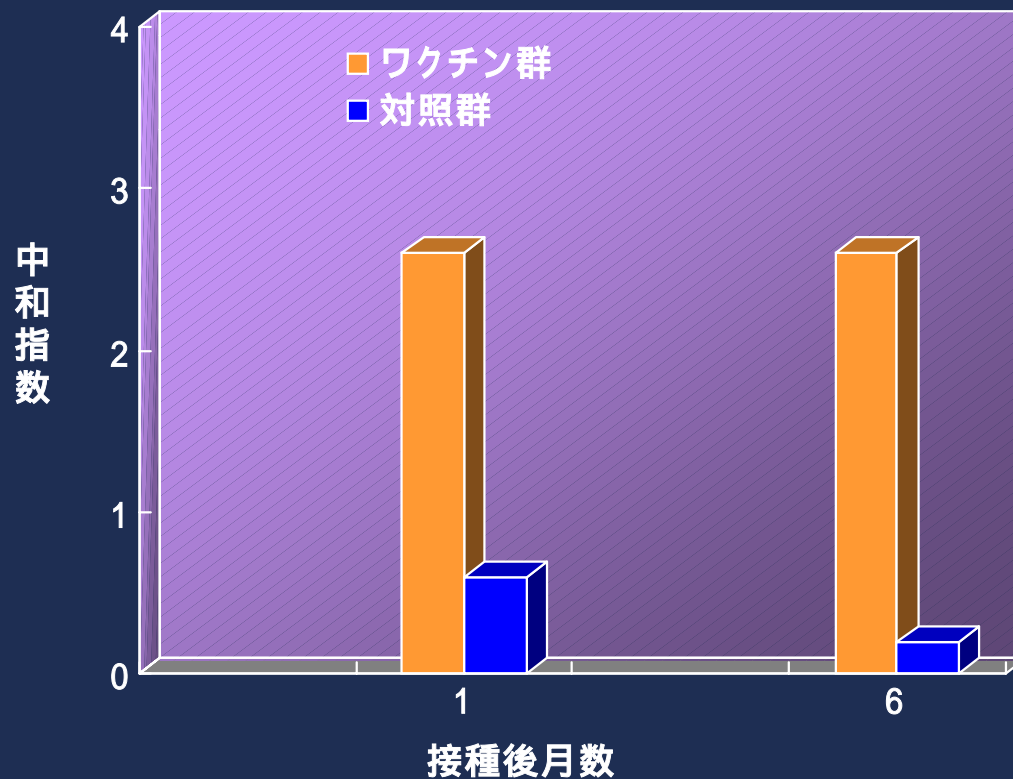
陽性限界=2



# 有効性試験

NBMg混合不活化ワクチン

## IB (H-5 2株) に対する免疫の持続



IB 中和試験：  
ワクチン接種  
後の力価試  
験(ウイルス  
希釈法による)

陽性限界=2



# 有効性試験

NBMg混合不活化ワクチン

## MGに対する免疫成立時期と持続

接種後の期間	免疫成立時期				免疫の持続	
	1週	2週	3週	4週	1月	6月
<b>(ワクチン群)</b>						
陽性羽数	5	0	0	0	1	3
攻撃耐過率 (%)	50	100	100	100	90	70
<b>(対照群)</b>						
陽性羽数	7	10	8	9	9	8
攻撃耐過率 (%)	30	0	20	10	10	20

- 1) ワクチン群および対照群とも攻撃羽数は、各区 10 羽ずつ
- 2) 陽性羽数：気管組織病変スコアで陽性と判定された羽数

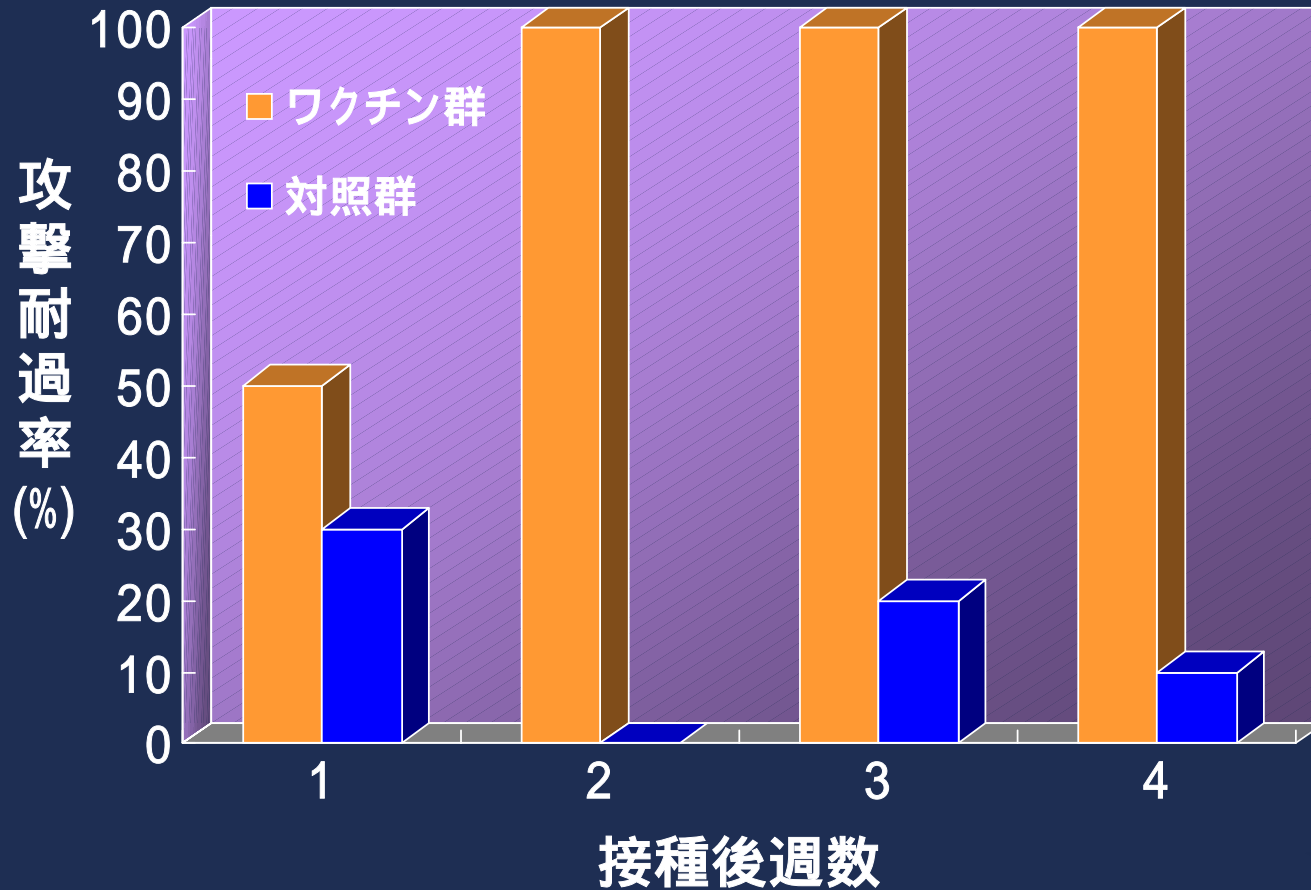


# 有効性試験

NBMg混合不活化ワクチン

## MGに対する免疫の成立時期

MG攻撃試験：  
気管組織病変  
スコアで陽性と  
判定された率



# 有効性試験

NBMg混合不活化ワクチン

## MGに対する免疫の持続

